

# 吉田村まつり

～きらりと光る小さなコミュニティ～

平成26年10月13日、はじめての「吉田村まつり」が開催されました。開催地の本吉田地区は、今は静かな農村地域ですが、明治22年に誕生した旧吉田村の中心。結城と宇都宮を結ぶ古道が通り、古くから鬼怒川の舟運でもにぎわっていました。その地に平成26年5月、イタリアンカフェ・パール「L'ape Ronza (ラーペロンツァ)」がオープンしました。そして、一軒のレストランから地域づくりへと広がり始めています。

レストランのオーナー伊澤敦彦さんの実家がいちご農園だったこともあり、道の駅しもつけでの開業にあたって、アイス販売の話が持ち上がりました。東京で広告のデザインの仕事をしていた伊澤さんは、東京でも通用するアイスにしたいと思い、都内の有名店で修行やイタリアへのジェラートの視察を経て、平成22年に栃木県に戻ってきました。イタリアで感じたことは、どんな田舎でも活気ある小さなコミュニティがあることでした。一方、生まれ育った場所として本吉田を思い起こすと、小学校の児童数は減り、子どもの祭事も年々規模が小さくなるなど、子育ての環境として心細く感じていました。そこで、本吉田にも活気ある小さなコミュニティをつくりたいと吉田村まつりを思いついたのです。そうした思いを持ちながら、道の駅 GELATERIA 伊澤いちご園を開業した3年後に、イタリアンカフェの開店に至りました。

当初はオープンしたばかりの店でライブを開催しようと、伊澤さんの仲間4人で計画しました。地域を巻きこみたいと考え始めた頃、下野ブランド事業の一環で行っていたブランドカフェというワークショップに参加し、そこでの参加者の賛同を得ながら市の後援も受け、「吉田村まつり」という企画として完成しました。

レストラン周辺には、これまで見過ごされてきた駐車場として使用している広場のほか、農協倉庫跡の大谷石の石蔵や倉庫もあるなど、恵まれた環境となっています。吉田村まつりにはこだわりのある店や作家さん達が出店し、マルシェ(野菜直売)は、県内の若手生産者自らが直接販売していました。まつりが開催された当日は、台風の直前にも関わらず、子どもから年配の方まで多くの方で賑わい、この地域の拠点となりそうな予感がしました。

背景写真:吉田村まつり・マルシェ(下野市本吉田)



つながッテルね!  
条例9条

地元を元気にしたい!積極的にまちづくりしたい!という若い力(市民力)が、ネットワークを通じて結集し、農業や地元コミュニティの活性化につながっています。市民が協力して積極的にまちづくりに関わり、参画を促して地元を盛り上げた事例であり、今後が期待されます。

**第9条(参画)** 市は、市民がまちづくり及び市政に参画する機会を保障しなければならない。

**2** 市民は、まちづくり及び市政に関心や問題意識を持ち、積極的な参画に努めるものとする。